

立教大学ジェンダーフォーラム主催 第74回ジェンダーセッション
「描かれた鏡と映し出された女たち：女性表象の可能性と不可能性をめぐって」

日 時： 2018年5月22日（火） 18:30～20:00
講 師： 江崎聡子氏（立教大学アメリカ研究所特任研究員）
会 場： 池袋キャンパス 本館2階1202教室

第74回ジェンダーセッションは、本学アメリカ研究所特任研究員である江崎聡子氏に、西欧近代の絵画や写真に登場する鏡と女のイメージを例にとりあげながら、女を描くことの可能性と不可能性についてご報告いただきました。

メアリー・カサットなどの絵画をはじめとする豊富な視覚資料を用いたご報告では、鏡像の役割として、「男が視て女が視られる」というジェンダーによる視線の力学を表象するものであることが浮かび上がりました。それは、男は表現・創造し、意味を与える存在である一方、女はインスピレーションを与えるミューズ的な存在という構図を示しています。また「パトロンと娼婦」のように、鏡像にはジェンダーのみならず階級の力関係も映し出されていることが指摘されました。さらに、黒人女性など鏡像にそもそも映らない女性たちがおり、社会的アイデンティティすら与えられていない、不可視化された存在についても論じられました。こうした構図を批判してきたフェミニスト・アートが女性の鏡像を通じて明らかにしてきた「ジェンダー」「階級」「人種」が交差する力関係が、今日のわたしたちの生活にも深く作用していることも議論されました。質疑応答では多くの質問が寄せられ、終了時刻を超えて活発な議論がなされました。素晴らしいご報告をして下さった江崎先生に、心より御礼申し上げます。

（立教大学ジェンダーフォーラム事務局・土野瑞穂）



セッションの様子